

平成30年11月（第3回）経営協議会議事要旨

日 時 平成30年11月19日（月）13時30分～15時35分

場 所 本部棟第一会議室

出席者 11 / 16

（学外委員）門野八洲雄、小林裕彦、松田正己、青山 肇、梶谷俊介の各委員

（学内委員）槇野博史（学長）、高橋香代（理事）、佐野 寛（理事）、

竹内大二（理事）、金澤 右（理事）、渡邊和良（事務局長）の各委員

欠席者

（学外委員）亀山郁夫、板東久美子、伊東香織、糸島達也の各委員

（学内委員）菅誠治委員（理事）

○ 前回議事要旨の確認

平成30年9月開催（第2回）の議事要旨（案）について、原案のとおり承認された。

○ 議事

1 審議事項

（1）諸規則について

【規則】

- ① 国立大学法人岡山大学職員給与規則の一部改正
- ② 国立大学法人岡山大学再雇用職員就業規則の一部改正
- ③ 国立大学法人岡山大学契約職員就業規則の一部改正
- ④ 国立大学法人岡山大学非常勤職員就業規則の一部改正
- ⑤ 国立大学法人岡山大学役員給与規則の一部改正

高橋理事から、資料1に基づき、諸規則の一部改正理由及び改正内容の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、金澤理事から、①の「国立大学法人岡山大学職員給与規則」の一部改正に関し、放射線取扱手当の支給について補足説明があった。

（2）平成30年12月期 期末特別手当に係る業績勘案率について

高橋理事から、資料2に基づき、平成30年12月期の役員の期末特別手当に係る業績勘案率について提案・説明があり、審議の結果、提案のとおり承認された。

（3）コンサルティング業務の収益化について

竹内理事から、資料3に基づき、コンサルティング業務及び当該取扱規程等の概要について説明があった。続いて質疑応答が行われ、審議の結果、原案のとおり承認された。

（質疑応答の概要は次のとおり。◆学外委員からの質疑 ◇大学側の回答）

- ◆ 参考までに、兼業のうち、いわゆるコンサルティング的な兼業の件数をお知らせいただきたい。
- ◇ 大学発ベンチャー企業への兼業申請ということであれば、現在、岡山大学発ベンチャー企業は38社である。正確な数字は、後日、お知らせしたい。
- ◆ 申込者の期待と岡大教員側のできることとのギャップが生じた場合に、トラブルになりかねない。また、旅費、器材の購入など、どちらが負担するのかで揉めることも危惧されるので、個々にリスク管理が必要になると考えられる。コンサルティング業務の実施内容を見極めて慎重に進めていただきたい。
- ◆ コンサルティング業務で得られた収入は、個人の収入になるのか、あるいは、大学の収入になるのか。
- ◇ 個人の収入にはならない。15%がオーバーヘッド、85%を所属部局(内、80%に相当する額は実施者の研究経費として配分)に配分する。(資料3の申合せ(案)により説明)
- ◆ 使い勝手のよい制度にしていきたい。また、制度化することで、大学の知見がオープンになることから、たいへんよい仕組みであると思う。
- ◇ 大学の中でどのような知見があるのか、大学全体としては、産学官連携機構で提供しているが、個々の教員の情報等について、わかりやすく提供しないとイケないと考えている。
- ◆ コンサルティング業務は、チーム(組織)で対応するものか、あるいは、個人で対応するものか。
- ◇ 研究者個人が対応するものを制度化したものである。組織として対応するものではなく、こうしたものは従来の共同研究、受託研究、受託事業等ではないかと考えている。
- ◆ コンサルティング料は、個人の知識に対する対価と考えるので、役職ではなく、業務内容に応じて決めていただきたい。
- ◇ 取扱規程の第6条第2項で、コンサルティング料は、柔軟に対応できることとしている。
- ◆ 特定の研究をしている教員とコンタクトのある企業は申込みをしやすいが、コンタクトのない企業は情報を得るのが難しいので、コンサルティング可能な業務一覧などがあればよいと思う。

(4) 岡山大学メディカルセンター(OUMC)構想の現状と今後の方向性について

学長から、持続可能な岡山医療に向けた医療連携シンポジウム(11月6日)の開催への協力に対し、謝辞があった。

引き続き、学長から、岡山大学メディカルセンター(OUMC)構想の今後の方向性について審議願いたい旨発言があった。続いて、渡邊事務局長から、資料4に基づき、OUMC構想の概要及び現状等の説明並びに平成29年6月設立の岡山医療連携推進協議会(CMA-Okayama)の設立経緯、概要等について説明があった。その後、学長から、これらを踏まえた今後の方向性について、同資料に基づき、説明があっ

た。

続いて質疑応答が行われ、審議の結果、今後の方向性について、CMA-Okayama による連携の実質化を図ること、また、一般社団法人 OUMC 及び一般社団法人岡山大学病院については、退会する方向で関係者と慎重に協議することが承認された。

(質疑応答の概要は次のとおり。◆学外委員からの質疑 ◇大学側の回答)

◆ OUMC 構想及び CMA-Okayama の両方を続けていただきたい。CMA-Okayama は非常に重要であり、さらに発展させることは賛成である。OUMC 構想は、6 病院が必ずしも揃わなくても、賛同する病院があればスタートできる。岡山大学病院の別法人化は、病院を大学から切り離し、他の病院と連携することで病院の機能強化を図る構想だったかと思う。そういった意味でも OUMC 構想及び CMA-Okayama の 2 トラックで行きながら、どうすべきか考えた方がよいのではないか。OUMC 構想は、岡山大学として機関決定して進めてきたものである。もう少しこの方向で何ができるか真剣に議論した上で方向性を決定し、組織としての連続性を維持していただきたい。様々な関係者の協力を得てここまできているわけなので、このような思いを持っている。

6 病院の足並みが揃わず、無理があったとは言えるが、少なくとも岡山大学が最初に退会するのはどうかと思う。

◆ 直ちに、(一社) OUMC 及び (一社) 岡山大学病院の両方から退会するということがよいと思う。今後の方向性としては、CMA-Okayama による連携を進めていくこと、また、岡山大学として退会を決断することは結構なことだと思う。ただ、(一社) 岡山大学病院については、岡山大学病院の名称が入っているので、(一社) OUMC とは扱いが異なるのではないか。岡山大学として、なくてよいということであれば、解散もあり得る。

◆ 失敗と受けとめて軌道修正し撤退すべきである。(一社) OUMC からは退会、(一社) 岡山大学病院は解散の方向に進めたらどうか。他 5 病院の合意を取らずに進めたことが失敗の一因だろう。

◆ 5 病院が参加できないと結論を出しているので、OUMC 構想を進めることはかなり無理がある。CMA-Okayama による連携の実質化を進めていったほうがよいと考える。

◆ (一社) OUMC について、大学として機関決定し、立ち上げた経緯から、大学として法人の整理をきちんとしたほうがよいと感じる。その上で次に繋がる形にしていただきたい。

◇ OUMC 構想自体は 6 病院の参加をもって設立を目指したものであるが、他 5 法人の賛同を得られなかった。CMA-Okayama は、6 法人の合意をもって設立されたものであり、連携を進めることとしている。

(一社) OUMC 及び (一社) 岡山大学病院共に、岡大として立ち上げたことから、社会的にも責任がある。関係者と退会の方向で議論していきたい。

2 報告事項

(1) 岡山大学シリコンバレーオフィスおよび現地法人との契約の廃止について

竹内理事から、資料5に基づき、シリコンバレーオフィスおよび現地法人との契約の廃止について報告があった。

(2) 寄付講座の設置について

竹内理事から、資料6（要回収資料）に基づき、全学教育・学生支援機構に平成30年12月1日付けで設置する寄付講座の概要について報告があった。

(3) 寄付講座の存続期間の更新について

竹内理事から、資料7に基づき、平成30年11月1日付けで存続期間を更新する大学院医歯薬学総合研究科の「救急外傷治療学講座」の概要について報告があった。続いて、平成30年12月1日付けで存続期間を更新する大学院医歯薬学総合研究科の寄付講座「陽子線治療学講座」の概要について報告があった。

(4) 平成30年度補正予算について

藤波財務部長から、資料8に基づき、平成30年度補正予算による措置予定事項の説明があった。また、本学における授業料免除枠の算定について併せて説明があった。

続いて、松山施設企画部長から、補正予算における施設整備実施事業について説明があった。

(5) 国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）について

学長から、資料9に基づき、国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の選定結果及び当該事業における岡山大学の経営改革ビジョンについて説明があった。また、大学経営改革に関する最近の動向について報告があった。

3 その他

(1) 岡山大学の研究推進・産学官連携について

竹内理事から、当日配布資料に基づき、岡山大学の研究推進・産学官連携に関し、研究・産学連携の方針と体制、研究推進・産学連携の支援の現状と成果及び大学をめぐる研究面での現状と課題について、プレゼンテーションによる説明があった。

(2) 次回開催日について

次回経営協議会は、平成31年1月16日（水）13時30分から鹿田地区管理棟において開催予定となった。

以上